

第 57 回学生生活実態調査 概要報告

全国大学生生活協同組合連合会

※データの無断転載はお断りいたします

はじめに 調査概要とサンプル特性について

<調査概要>

調査実施時期	2021 年 10～11 月（1963 年より毎年秋に実施 ※未実施年あり）
対象	全国の国公立および私立大学の学部学生
回収	10,813（30 大学 回収率 31.4%）
調査方法	Web 調査（郵送またはメールで調査依頼し、Web 上の画面から回答）
調査項目の概要	収入・支出、奨学金、アルバイト、登校日数、オンライン授業状況、サークル所属、就職活動、学生生活充実度、勉強時間、読書時間など

<サンプル特性>

- (1) 第 57 回学生生活実態調査は 97 生協が参加、22,481 名から協力を得た。ただしここで紹介する数値は、地域・大学設置者・大学の規模などの構成比を考慮し、経年の変化をより正確にみるために指定した 30 大学生協（国立 19・公立 3・私立 8）の 10,813 名のデータである。
- (2) 前回と比較して専攻の構成比に差異がなく、経年の比較にも耐えうる調査である。
- (3) 前回と比較すると男性の構成比が 0.6 ポイント増、女性は 0.6 ポイント減となった。
- (4) 専攻別の男女の構成比は、文科系 4.5:5.2、理工系 7.0:2.7、医歯薬系 3.5:6.1 となっている。
- (5) 自宅生と自宅外生の構成比は、1991 年以降初めて自宅生が過半数となった。

大学設置者別 (人・%)

	21実数	21構成比	20構成比
国公立	5,995	55.4	56.1
私立	4,818	44.6	43.9
総計	10,813	100.0	100.0

学年別 (人・%)

	21実数	21構成比	20構成比
1 年生	2,820	26.1	28.9
2 年生	2,827	26.1	26.1
3 年生	2,430	22.5	23.0
4 年生以上	2,736	25.3	22.0
総計	10,813	100.0	100.0

学部別 (人・%)

	21実数	21構成比	20構成比
文科系	5,571	51.5	52.7
理工系	3,793	35.1	34.3
医歯薬系	1,449	13.4	13.0
総計	10,813	100.0	100.0

住居形態別 (人・%)

		21実数	21構成比	20構成比
自宅・実家暮らし		5,561	51.4	49.6
自宅外(寮生+下宿生)		5,252	48.6	50.4
住 ま い 形 態 別	寮生	341	3.2	2.8
	下宿生	4,911	45.4	47.7
	アパート	2,744	25.4	28.5
	マンション	1,659	15.3	15.4
	学生会館	226	2.1	2.5
	下宿(食事付・食事無)	246	2.3	
	その他	36	0.3	0.4
	下宿・Kなし(20年のみ)			0.1
	食事付下宿(20年のみ)			0.9
	別 食 事	食事付き	414	3.8
	食事なし	4,838	44.7	
総計		10,813	100.0	100.0

性別 (人・%)

	21実数	21構成比	20構成比
男性	5,674	52.5	51.9
女性	4,767	44.1	44.7
否回答	151	1.4	1.2
無回答	221	2.0	2.1
総計	10,813	100.0	100.0

今回調査結果の特徴

1. 新型コロナウイルス感染症拡大後2回目の調査で、コロナ禍1年目・2年目の生活や意識の変化がデータに現れている。
2. 2020年調査に比べ「学生生活充実度」「サークル加入」等各種数値が回復したものの、2019年調査（コロナ以前）の水準までは戻っていない。
3. 学年別に見ると、「コロナ禍の学生生活」を大学生がどう受け止めているかについて意識の違いがみられる。
4. とりわけコロナ禍直後に入学した2年生（2020年4月入学者）は、他の学年に比べて大学生活の充実度が低いなど、懸念されるデータとなっている。

本調査は2022年1月31日に速報版を公開している。

https://www.univcoop.or.jp/press/life/pdf/pdf_report57_pre.pdf

この報告と合わせてご覧いただきたい。速報版では、調査の自由記入欄に寄せられた学生の様々な声も掲載しており、実態が伝わってくる。

速報版（2022年1月31日公開）の報告要点

- ① 学生生活の充実度（「充実している」+「まあ充実している」）は、全体では前回（20年秋）より回復した。1年生は80.6%に回復したが、2年生以上は2年連続減少。現2年生は前年の1年生時56.5%より70.8%に回復した。
- ② 1週間の登校日数はやや回復したが、「0日」がまだ13.5%。2年生の平均日数は2.9日で1年生より0.3日少ない。
- ③ 授業形態は対面授業が増えているが、「オンラインが多い」が半数。オンライン授業が多いほど学生生活充実度は低い。
- ④ 1年生のサークル所属率はかなり回復しているが、19年水準に戻っていない。2年生の「所属したことがない・今後も入らない」が他学年より多い。サークルに所属している層は、学生生活充実度が比較的高い。
- ⑤ アルバイト就労率・収入額は回復しているが、19年より低い。
- ⑥ 19年の食事摂取率と比べて、朝食は減り、朝昼兼用食が増加。
- ⑦ 日常生活で気にかかっていることは、「勉強」「就職」「対人関係」が増えている。

本報告についてのお問い合わせは以下にお願いいたします
〒166-8532 東京都杉並区和田3-30-22
全国大学生生活協同組合連合会
広報調査部 安田、関原
電話 03-5307-1111
E-mail gakucho@univcoop.or.jp

1. 学生の経済状況

(1) 自宅生の生活費（図表1）

「アルバイト収入」「教養娯楽費支出」は20年より回復するも19年には届かず
「食費支出」は3年連続減少／「勉学費支出」は2年連続増加

- ① 自宅生の「収入合計」は63,630円。前年から810円増加したが、19年からは3,850円少ない。
- ② 費目別では「アルバイト」が39,860円で前年から2,180円増加、19年からは1,370円少ない。「アルバイト」の収入構成比は62.6%で前年から2.6ポイント増加、70年以降最大となった。
- ③ 「支出合計」は62,970円。前年から840円増加。
- ④ 費目別では「食費」10,540円（前年▲130円）が19年から3年連続減少し、「食費」の支出構成比は16.7%と、70年以降最小だった前年より更に0.5ポイント減少した。
- ⑤ 「教養娯楽費」11,940円は前年から1,190円増加、19年より1,050円少ない。
- ⑥ 「貯金・繰越」18,850円は前年から760円減少したが、支出構成比では29.9%を占める。

【図表1】1ヶ月の生活費＜自宅生＞

	(円)											(%)	
	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年	21年	21年 前年増減	21年 構成比
小遣い	15,070	14,670	15,370	15,200	15,040	14,270	13,550	12,780	13,480	10,700	10,370	-330	16.3
奨学金	12,390	11,790	12,370	11,740	11,470	10,770	11,040	11,060	10,620	11,420	10,240	-1,180	16.1
アルバイト	29,500	30,030	31,530	32,370	33,960	35,770	37,920	40,920	41,230	37,680	39,860	2,180	62.6
定職	270	260	220	220	240	70	190	240	300	370	490	120	0.8
その他	1,590	1,630	1,500	1,590	1,470	1,430	1,350	2,750	1,840	2,650	2,670	20	4.2
収入合計	58,830	58,360	60,990	61,120	62,190	62,310	64,070	67,750	67,480	62,820	63,630	810	100.0
食費	10,920	10,980	11,460	12,010	12,250	12,580	12,580	14,370	13,850	10,670	10,540	-130	16.7
住居費	210	200	240	210	280	160	270	250	150	960	590	-370	0.9
交通費	9,460	9,250	8,860	9,530	9,020	8,830	8,680	9,030	8,160	7,160	7,990	830	12.7
教養娯楽費	6,840	7,150	8,080	7,840	8,490	8,240	9,470	11,940	12,990	10,750	11,940	1,190	19.0
書籍費	1,850	1,800	1,740	1,670	1,680	1,450	1,340	1,540	1,620	1,740	1,680	-60	2.7
勉学費	1,180	1,170	1,140	1,120	1,120	960	1,130	1,430	1,270	1,420	1,570	150	2.5
日常費	5,330	4,900	4,680	4,830	4,800	4,900	5,280	6,090	6,160	6,300	6,270	-30	10.0
電話代	3,300	2,990	2,840	2,630	2,670	2,280	2,210	1,890	1,780	1,730	1,470	-260	2.3
その他	1,680	1,490	2,460	1,800	2,410	3,180	2,770	2,640	3,220	1,790	2,070	280	3.3
貯金・繰越	16,220	16,110	17,400	16,530	17,190	18,090	18,880	18,050	16,880	19,610	18,850	-760	29.9
支出合計	56,990	56,040	58,890	58,180	59,890	60,690	62,590	67,200	66,080	62,130	62,970	840	100.0

(2) 下宿生の生活費（図表2・3）

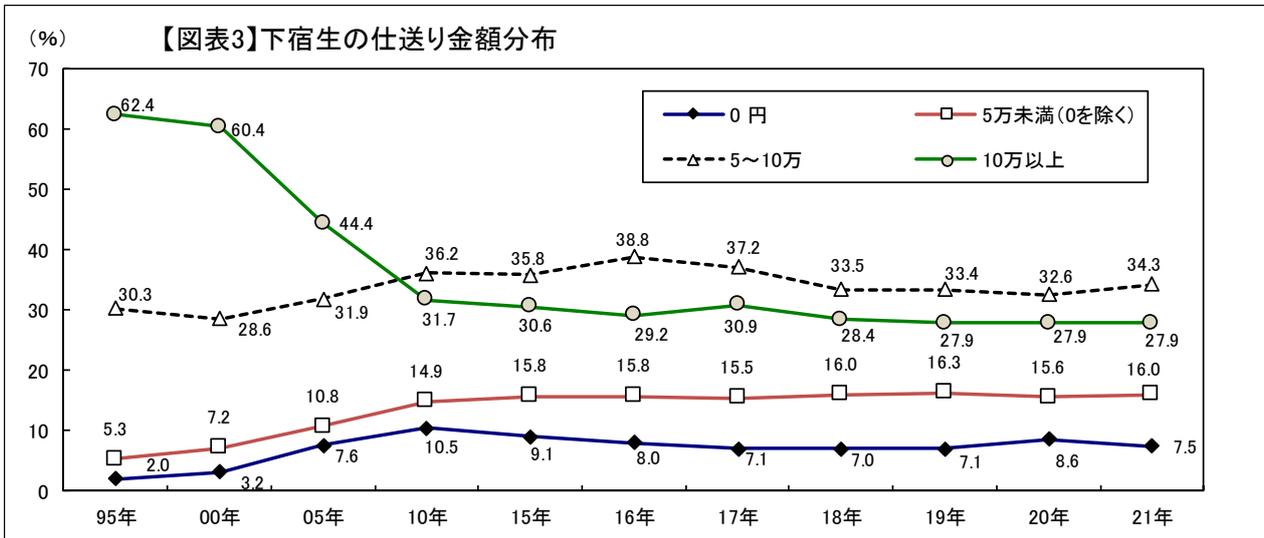
「仕送り・アルバイト収入」「食費・交通費・教養娯楽費支出」は
20年より回復するも19年には届かず
「貯金・繰越」が最大値／コロナ前に比べ
「収入減だが支出も減少し、貯蓄・繰越が増加」という構造か

- ① 下宿生の「収入合計」は125,280円。前年から3,030円増加したが、19年からは4,580円少ない。
- ② 費目別では「仕送り」が71,880円で前年から1,470円増加（19年▲930円）したものの、仕送り「0円」の下宿生は全体の7.5%（前年▲1.1ポイント）、「5～10万円未満」34.3%（前年+1.7ポイント）。引き続き、仕送り状況の厳しさがうかがえる。

- ③ 「アルバイト」29,130円は前年から2,770円増加したが、19年からは4,470円少ない。収入構成比は23.3%で、前年から1.7ポイント増加した。
- ④ 「奨学金」20,380円（前年▲750円・19年▲520円）。下宿生の奨学金受給者は、収入の45.2%を奨学金が占めており、「仕送り」は非受給者より47,490円少ない。
- ⑤ 「支出合計」は125,040円（前年+3,860円・19年▲4,050円）。
- ⑥ 費目別では「食費」の24,680円（前年+110円・19年▲1,710円）は、支出構成比が19.7%となり13年以降保っていた20%を下回った。
- ⑦ 「教養娯楽費」11,760円（前年+770円・19年▲1,110円）。
- ⑧ 「貯金・繰越」14,300円（前年+1,310円・19年+830円）の支出構成比は11.4%、17年と並び70年以降最大値。

【図表2】1ヶ月の生活費<下宿生>

	(円)											(%)	
	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年	21年	21年 前年増減	21年 構成比
仕送り	69,780	69,610	72,280	70,140	71,440	70,610	72,980	71,500	72,810	70,410	71,880	1,470	57.4
奨学金	25,350	25,380	24,050	24,210	23,270	21,260	20,190	20,530	20,900	21,130	20,380	-750	16.3
アルバイト	21,540	23,100	23,100	25,560	25,320	27,120	28,770	31,670	33,600	26,360	29,130	2,770	23.3
定職	180	500	410	210	230	30	130	470	370	450	450	0	0.4
その他	2,040	2,050	1,650	2,060	2,320	1,800	1,820	3,110	2,180	3,900	3,450	-450	2.8
収入合計	118,900	120,640	121,500	122,170	122,580	120,820	123,890	127,280	129,860	122,250	125,280	3,030	100.0
食費	22,590	22,900	23,980	24,480	24,760	24,770	25,190	26,230	26,390	24,570	24,680	110	19.7
住居費	53,020	53,420	53,050	52,630	53,100	51,990	52,820	52,560	53,930	52,910	53,920	1,010	43.1
交通費	3,150	3,260	3,310	3,410	3,320	3,280	3,330	4,230	4,070	3,370	3,850	480	3.1
教養娯楽費	8,460	8,200	8,900	8,600	9,240	8,800	9,830	11,520	12,870	10,990	11,760	770	9.4
書籍費	2,070	2,030	1,820	1,950	1,720	1,590	1,510	1,710	1,860	1,850	1,700	-150	1.4
奨学金	1,540	1,570	1,510	1,520	1,490	1,360	1,380	1,830	1,900	1,870	1,900	30	1.5
日常費	6,610	6,640	5,790	5,610	5,540	5,810	6,070	7,260	7,620	7,120	7,520	400	6.0
電話代	4,720	4,620	4,390	4,030	4,100	3,510	3,800	3,710	3,550	3,370	3,110	-260	2.5
その他	2,310	2,220	3,040	2,420	2,430	3,220	3,010	3,310	3,430	2,140	2,310	170	1.8
貯金・繰越	10,290	10,710	12,140	12,310	12,500	13,270	13,820	13,740	13,470	12,990	14,300	1,310	11.4
支出合計	114,760	115,570	117,930	116,960	118,200	117,610	120,750	126,100	129,090	121,180	125,040	3,860	100.0



(3) 奨学金 (図表 4~5)

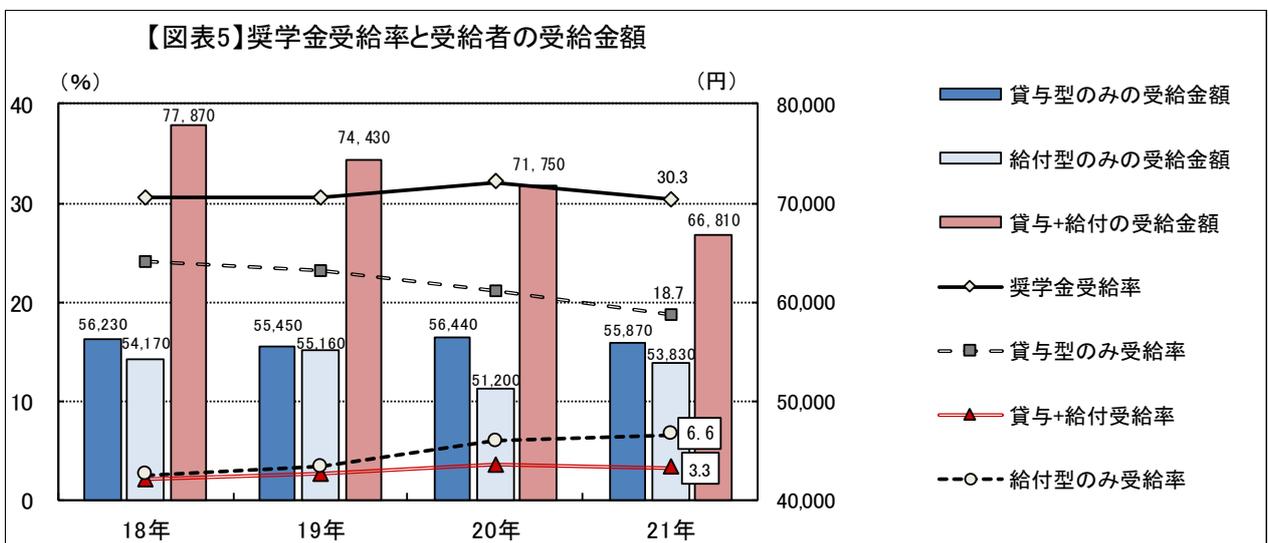
奨学金受給者は30.3%

「貸与型」と「給付型」の比率は2:1程度／「給付型」奨学金の受給者は徐々に増加
 「貸与型」奨学金受給者の70.6%が返還に不安を感じている

- ① 何らかの奨学金を「受給している」は30.3%（前年▲1.8ポイント）。貸与型奨学金の受給者が減少傾向で、理工系（同▲3.4ポイント）と1年生（同▲4.6ポイント）の減少が目立つ。
- ② 受給者の受給平均金額（有額平均）は56,380円で、前年より490円減少した。
- ③ 給付型奨学金の受給者は10.0%と0.4ポイント増加。貸与型受給者は22.1%で、給付型受給者の約2倍となっている。
- ④ 将来奨学金を返還することに不安を「常を感じている」+「時々感じている」は貸与型奨学金受給者の70.6%（前年▲2.8ポイント）を占めている（奨学金受給者を100として）。

【図表4】受給している奨学金の種類

	17年	18年	19年	20年	21年	自宅生	下宿生	寮生	男性	女性	文系	理系	医歯薬	1年	2年	3年	4年	国立	私立
受給している	32.0	30.5	30.5	32.1	30.3	25.6	34.4	49.6	30.4	30.1	30.4	28.2	35.4	28.8	31.6	31.3	29.7	31.7	28.6
貸与型を受給している	28.9	26.2	25.7	24.8	22.1	18.2	26.0	31.1	22.9	21.9	22.1	21.0	25.3	20.1	23.6	22.5	22.4	23.6	20.2
貸与型のみ受給	27.2	24.1	23.1	21.1	18.7	15.3	22.3	24.3	19.6	18.5	18.8	17.6	21.5	17.7	20.1	18.7	18.5	20.3	16.8
給付型を受給している	3.7	4.9	6.0	9.6	10.0	8.8	10.5	22.6	9.7	10.5	10.1	9.1	11.9	8.9	10.3	10.9	10.1	10.0	10.0
給付型のみ受給	2.0	2.5	3.4	6.0	6.6	5.9	6.8	15.8	6.4	7.0	6.9	5.8	8.1	6.5	6.8	7.1	6.2	6.7	6.5
貸与型+給付型受給	1.7	2.1	2.6	3.6	3.3	2.8	3.7	6.5	3.2	3.4	3.3	3.3	3.7	2.4	3.4	3.7	3.9	3.3	3.4
無回答・不明	1.1	1.8	1.4	1.4	1.6	1.6	1.6	3.0	1.2	1.2	1.5	1.6	2.0	2.2	1.3	1.7	1.2	1.4	1.8



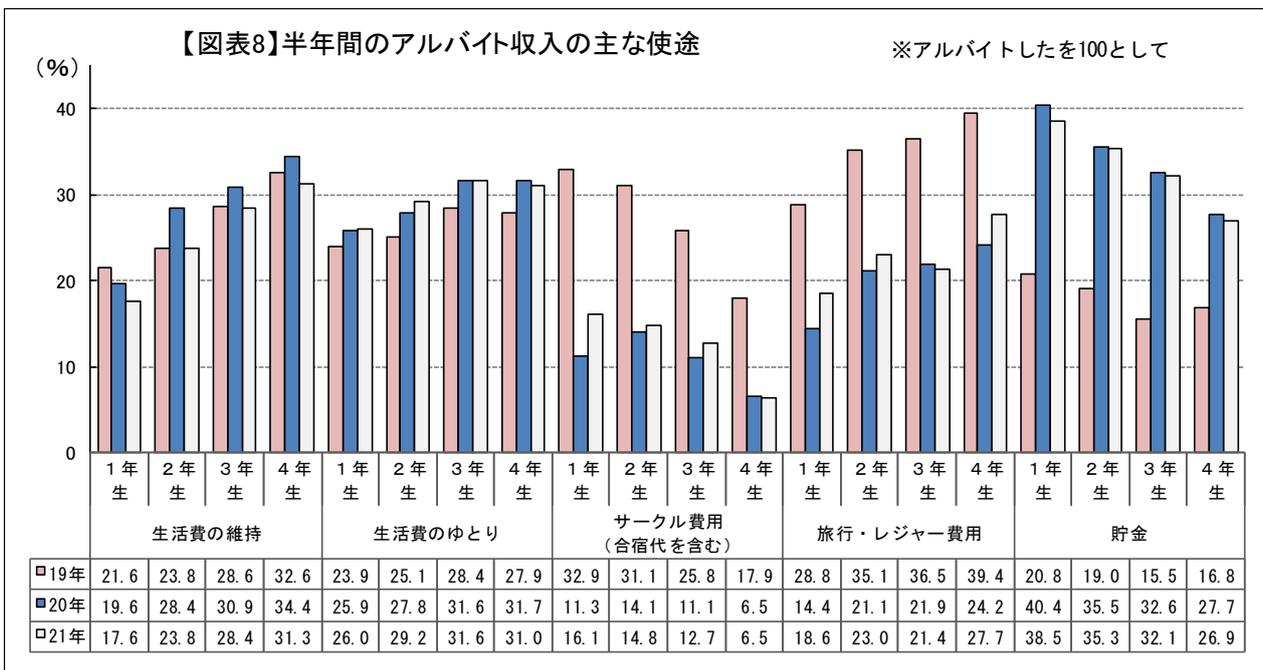
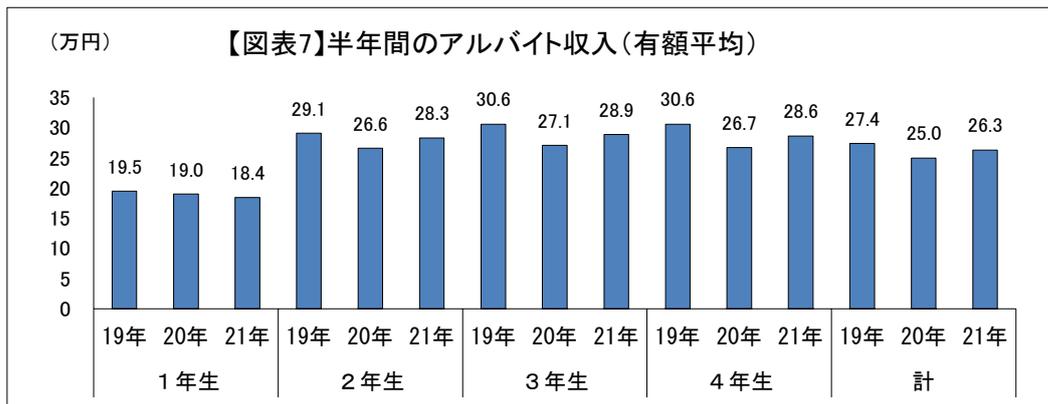
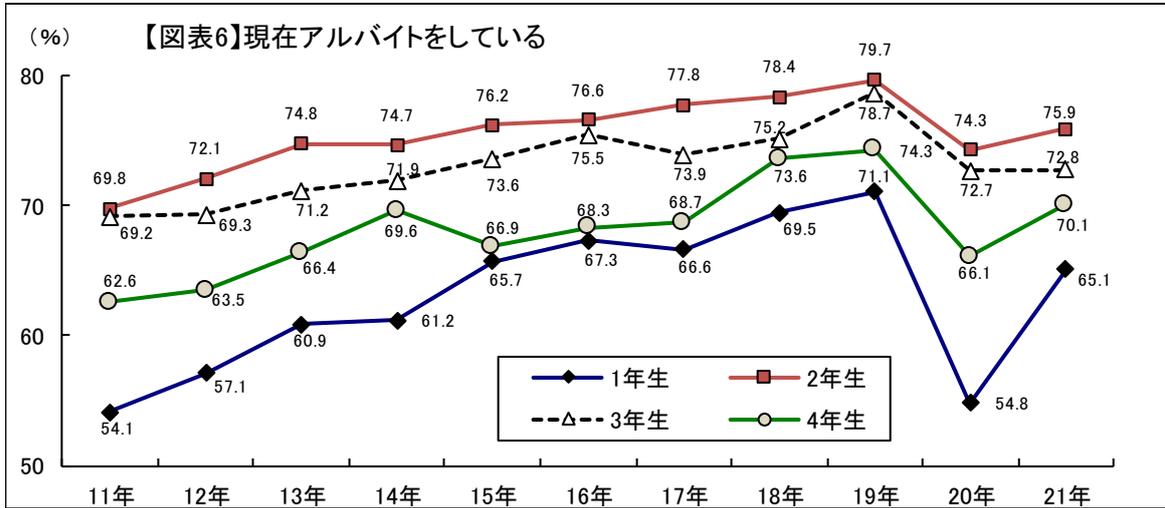
(4) アルバイト (図表 6~8)

就労率・収入額ともに20年より回復傾向だが19年には及ばず

収入用途はコロナ前に比べ「レジャー」「サークル」費用が減少し、「生活費」「貯金」へ

- ① 半年間（21年4~9月）のアルバイト就労率は77.6%（前年+5.2ポイント・19年▲6.3ポイント）。現在の就労率は70.9%（前年+4.4ポイント・19年▲4.9ポイント）と、前年より回復傾向にあるがコロナ禍前には戻っていない。
- ② 現在（21年10~11月）のアルバイト就労率は、1年生で大きく回復している（1年生前年+10.3・2年生同+1.6・3年生同+0.1・4年生同+4.0ポイント）。
- ③ 1週間の勤務時間は、「10時間未満」25.8%（前年+2.1・19年+1.4ポイント）、「10~20時間」31.4%（同+3.2・▲1.6ポイント）、「20時間以上」10.2%（同▲0.4・▲3.8ポイント）と10時間未満の短時間勤務が増加している（「10時間未満」1年生前年+7.1・2年生同+0.5・3年生同▲1.7・4年生同+1.7ポイント）。
- ④ 半年間にアルバイトした人の収入（有額平均）は263,000円。前年から13,000円増加したが、19年より11,000円少ない。1年生は前年から6,000円減少した。

- ⑤ 半年間のアルバイト収入が「大きく減少した」+「減少した」は28.9%、「変わらない」55.9%、「増加した」+「大きく増加した」が13.8%となった（「アルバイトをした」を100として）。
- ⑥ 半年間のアルバイト収入の使途は、「貯金」33.1%（前年▲1.2・19年+15.0ポイント）、「生活費のゆとり」29.5%（同+0.4・+3.3ポイント）、「生活費の維持」25.4%（同▲2.9・▲1.1ポイント）と、4人に一人が「生活費」、3人に一人が「貯金」としている。「旅行・レジャー費用」22.8%（同+2.4・▲12.0ポイント）と「サークル費用」12.5%（同+1.5・▲14.7ポイント）は増加したが、19年には大きく及ばない（「アルバイトをした」を100として）。



(5) 半年間の特別費 (図表 9)

「海外旅行」は見通し立たず、「国内旅行」は復活の兆し
「就活」費用はコロナ前に比べて大幅減少傾向、オンライン就活の普及のためか
お金をかけているのは「各種スクール」「衣料品」

- ① 21年4～9月に支出した特別な費用の有額平均額 (0を含まない平均) は173,600円で前年から900円増加したが、19年より34,300円減少している。
- ② 実施率が増加した費目は、「合宿代」17.1% (前年+5.9・19年▲17.9ポイント)、「国内旅行」34.3% (同+5.0・▲10.3ポイント)、「帰省代」28.4% (同+2.6・▲6.8ポイント)。学生の行動が少しずつ再開されたことがうかがえる。
- ③ また「各種スクール (資格などの講座やスクール)」10.3% (前年+1.9・19年+6.5ポイント)、「耐久消費財や高額商品の購入 (パソコン・情報機器関連・スマホなど)」22.3% (同▲1.3・+6.6ポイント) は、19年と比べて増加が大きい。
- ④ 前年に続き「海外旅行」「留学」の実施は1%に満たない。
- ⑤ 自己負担額は71,600円と前年から5,400円増、自己負担率も45.5%と前年から2.7ポイント増加した。

【図表9】特別費の平均額・実施率(21年4月～9月)と予定(21年10月～22年3月)

	実額平均(円)			有額平均(円)			実施率(%)			予定あり(%)		
	19年	20年	21年	19年	20年	21年	19年	20年	21年	19年	20年	21年
合宿代	19,400	3,400	6,100	47,100	25,400	29,900	35.0	11.2	17.1	21.2	15.4	17.1
国内旅行	29,600	15,800	21,500	56,400	44,300	52,300	44.6	29.3	34.3	42.3	36.9	38.9
海外旅行	24,700	1,100	400	143,900	115,800	117,200	14.6	0.8	0.3	18.6	1.3	1.4
帰省代	11,200	7,200	8,500	26,900	23,100	25,000	35.2	25.8	28.4	30.9	30.5	29.6
留学	12,900	2,600	700	327,800	323,100	112,800	3.3	0.7	0.5	3.0	0.8	1.0
運転免許	47,100	57,100	51,900	252,800	264,400	259,100	15.8	17.8	16.7	6.1	6.1	6.7
各種スクール	5,900	7,600	10,000	131,400	74,600	81,400	3.8	8.4	10.3	2.4	5.2	5.9
高額商品	15,500	30,700	28,200	83,500	107,200	105,600	15.7	23.6	22.3	7.3	8.4	8.9
衣料品	18,400	18,300	19,900	32,000	30,300	32,500	48.9	49.7	51.1	34.0	40.6	41.5
引越し	1,900	2,600	2,700	80,600	111,800	117,600	2.0	1.9	2.0	5.8	6.4	6.9
就職活動	9,200	5,800	5,500	44,600	31,600	30,800	17.6	15.2	14.9	9.9	11.5	10.7
その他	2,100	2,200	2,100	73,200	83,200	63,800	2.4	2.2	2.7	2.0	1.5	2.1
合計	197,800	154,600	157,500	207,900	172,700	173,600						
自己負担額	99,500	66,200	71,600	117,400	87,200	92,100						
負担率(%)	50.3	42.8	45.5	56.5	50.5	53.1						

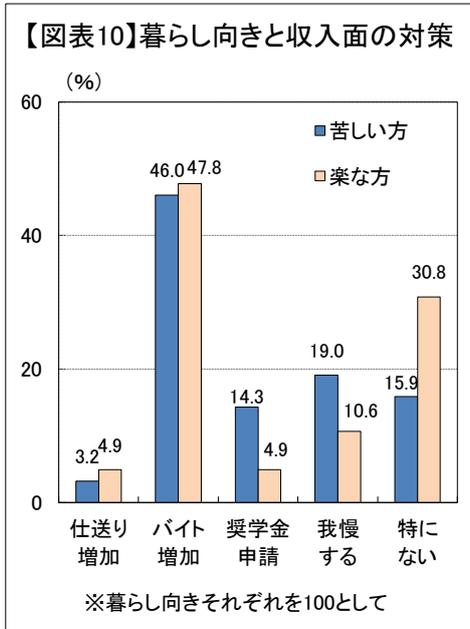
(6) 暮らし向き (図表 10～12)

コロナ禍においても、学生自身の暮らし向きに対する受け止めは大きく変化せず
主な家計支持者の収入は厳しさが続いている

- ① 暮らし向きが「楽な方」(「大変楽な方」+「楽な方」) は63.0%で5年連続増加した。
- ② これから先の見通しは「変わらない」50.1%、「よくなりそう」(「かなりよくなりそう」+「少しよくなりそう」) 19.8%、「苦しくなりそう」(「少し苦しくなりそう」+「かなり苦しくなりそう」) 20.2%と、好転と悪化の見通しがほぼ同率となった。
- ③ 2年生は、暮らし向きが「楽な方」61.3% (1年生62.4%・3年生64.1%・4年生64.3%)、今後の見通しが「よくなりそう」15.5% (1年生21.1%・3年生18.6%・4年生23.7%) と、他学年に比べ楽観的ではない。
- ④ 暮らし向きが「苦しくなりそう」な人の収入対策は、「収入が減っても我慢する」19.0%、「奨学

金を申請する」14.3%、「アルバイトを増やす」46.0%で、「楽な方」（それぞれ10.6%・4.9%・47.8%）と対策意識に違いがある（それぞれの暮らし向きを100として）。

- ⑤ 主な家計支持者の収入が「減少した」は14.0%（前年18.9%）と家計の困難は続いている。
- ⑥ 節約・工夫したい支出費目の中で最も多い「外食費を含む食費」58.5%は、前年より0.8ポイント増加。
- ⑦ 増やしたい支出費目は、「貯金」33.0%（前年+0.8ポイント）、「衣料品代」20.1%（同+0.1ポイント）、「教養娯楽費」16.6%（同+0.6ポイント）、「勉学費」15.3%（同+0.4ポイント）と前年とほぼ変化がない。



【図表11】「主な家計支持者」の収入の変化 (%)

	20年	21年	自宅生	下宿生	寮生	文系	理系	医歯薬	国立	私立
大きく減少した	3.5	2.7	2.8	2.5	4.4	2.9	2.8	2.0	2.5	3.0
減少した	15.4	11.3	11.6	11.0	12.3	12.0	10.6	10.7	10.2	12.7
減少した計	18.9	14.0	14.4	13.5	16.7	14.9	13.4	12.7	12.7	15.7
変わらない	38.1	40.0	40.7	39.0	41.1	39.0	39.3	45.6	42.9	36.3
増加した	1.5	2.6	2.5	2.6	2.6	2.7	2.4	2.6	2.4	2.8
大きく増加した	0.2	0.3	0.3	0.3	0.6	0.3	0.3	0.3	0.3	0.4
増加した計	1.7	2.9	2.8	2.9	3.2	3.0	2.7	2.9	2.7	3.2
わからない	35.2	36.4	35.0	38.2	34.0	36.1	38.1	33.2	35.6	37.5
無回答	6.1	6.7	7.0	6.5	5.0	7.0	6.6	5.6	6.1	7.4

※19年以前は調査なし

【図表12】節約・工夫したい費目・増やしたい費目
(主な5項目抜粋) (%)

		16年	18年	20年	21年
節約・工夫したい費目	外食費を含む食費	65.1	61.9	57.7	58.5
	嗜好品代	19.1	18.6	19.0	18.9
	交通費	12.8	11.8	14.7	14.8
	衣料品代	10.4	9.3	12.7	12.5
	カフェ代	7.9	8.2	8.8	10.0
増やしたい費目	貯金	45.6	30.5	32.2	33.0
	衣料品代	22.2	20.2	20.0	20.1
	教養娯楽費	10.1	9.1	16.0	16.6
	勉学費	11.9	10.5	14.9	15.3
	書籍代	18.0	14.7	14.6	14.4

※17・19年は調査なし

2. 大学生活・学生の意識

(1) 登校日数、対面・オンライン授業の状況（図表13～14）

登校日数は大学・学部によって大きな差

授業形態は対面授業が増えているが「対面よりオンラインが多い」回答が優勢

対面授業とオンライン授業の連続に苦慮する学生が多い（速報版5～7pの自由記述欄参照）

- ① 最近1週間の登校日数の平均は、2.8日と前年から0.8日増えたが、19年4.4日の6割強にとどまっている。新型コロナウイルス感染症拡大の地域差があったことに加えて、大学の対応の違いによる登校日数の差が大きい。調査した全国97大学生協の中で、平均登校日数が4.7日と最も多いA大学では、登校「0日」1.0%・「5日」55.1%に対し、平均が0.4日と最も少ないD大学では、登校「0日」75.8%・「5日」0%となっている。

- ② 学部による違いも大きく、「5日」(19.4%・前年+7.5ポイント)登校した割合は、文科系12.0%・理工系24.4%・医歯薬系35.1%となっている。
- ③ 調査時(21年10~11月)の「最近1週間の授業形態」は、「すべて対面授業」11.7%、「すべてオンライン授業」11.9%となっている。「すべて対面授業」は4年生の19.7%に比べて、1年生5.7%、2年生9.1%と低学年に少ない。「オンライン授業が多い」(「すべてオンライン授業」+「対面授業とオンライン授業がありオンライン授業が多い」)47.3%(前年72.8%)は、1年生50.5%(同82.0%)・2年生54.1%(同79.5%)・3年生53.0%(同73.8%)・4年生32.1%(同51.5%)と2年生が多くなっている
- ④ 平日1日の授業形態別の授業時間は、「対面授業」1.8時間(前年+0.6時間)、「オンライン授業」2.0時間(同▲0.6時間)。オンライン授業時間が授業時間の54.1%(同▲14.3ポイント)を占めている。

【図表13】最近1週間の大学生協別登校日数
(平均日数の最大3校/最小3校) (%)

	登校日数が多い			登校日数が少ない		
	A大学	B大学	C大学	D大学	E大学	F大学
0日	1.0		2.4	75.8	69.8	30.8
1日	5.1	4.7		11.7	18.0	22.4
2日	3.1	8.1	4.8	10.2	8.8	24.3
3日	3.1	7.4	14.3	2.3	2.4	12.1
4日	13.3	14.8	26.2		0.5	4.7
5日	55.1	47.7	33.3			2.8
6日	14.3	10.7	11.9		0.5	0.9
7日	5.1	6.7	7.1			0.9
登校日数平均(日)	4.7	4.5	4.5	0.4	0.5	1.5

※休講中以外
※このデータのみ30大学ではなく調査実施した全97生協の数値

【図表14】最近1週間の授業形態 (%)

	20年	21年	自宅生	下宿生	寮生	文系	理系	医歯薬	1年生	2年生	3年生	4年生	国立	私立
すべて対面授業	8.2	11.7	9.2	14.5	10.9	9.9	10.8	20.9	5.7	9.1	12.7	19.7	15.9	6.4
両方あり・対面の方が多い	9.4	22.9	21.8	23.6	31.7	20.9	25.5	23.9	30.0	26.8	23.0	11.5	25.1	20.2
対面とオンラインが同じ	5.3	9.9	10.0	9.8	8.5	10.5	9.7	7.7	13.4	9.3	9.5	7.1	9.5	10.3
両方あり・オンライン多い	46.3	35.4	39.1	31.2	36.1	41.3	31.7	22.7	41.3	43.2	40.5	16.8	28.3	44.3
すべてオンライン授業	26.5	11.9	12.8	11.3	7.0	13.2	10.9	9.8	9.2	10.9	12.5	15.3	10.6	13.6
大学による休講中	0.5	0.3	0.3	0.2		0.4	0.1	0.3	0.2	0.2	0.4	0.3	0.4	0.1
すでに単位取得済み	3.0	7.4	6.1	8.9	5.3	3.4	11.0	13.3	0.1	0.0	0.8	28.3	9.6	4.6
その他	0.8	0.5	0.6	0.4	0.6	0.4	0.3	1.4	0.1	0.3	0.6	1.1	0.6	0.4

(2) 学生生活の充実度と大学生活の重点 (図表15~18)

「学生生活充実度」は1年生が急速に回復するも、2年生以上は前年に続き減少

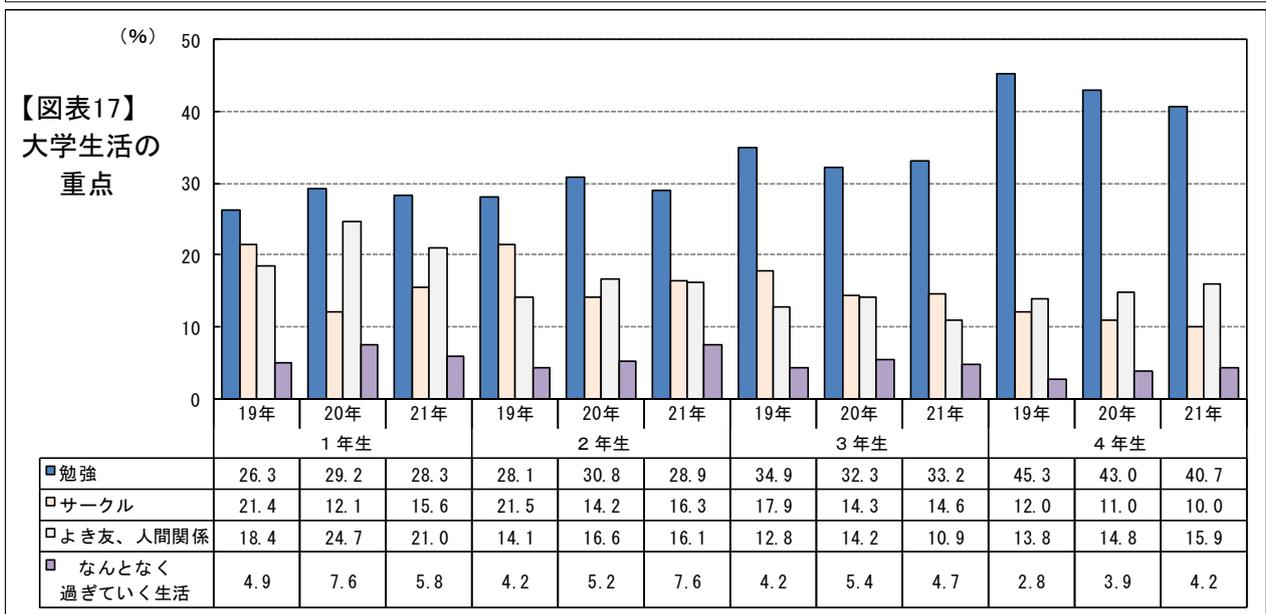
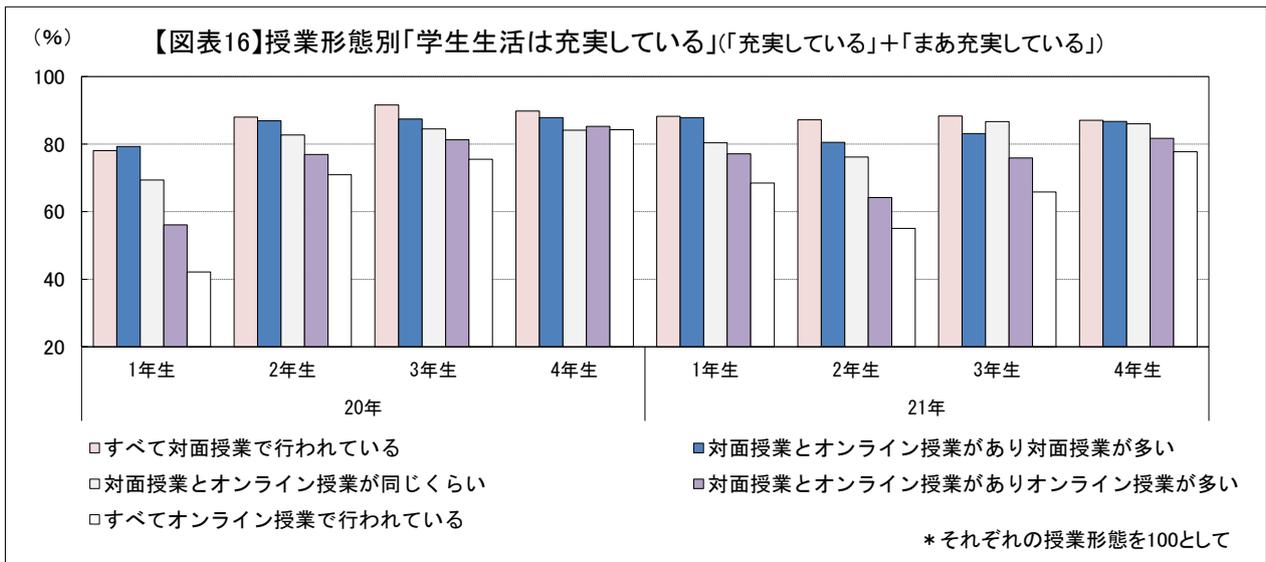
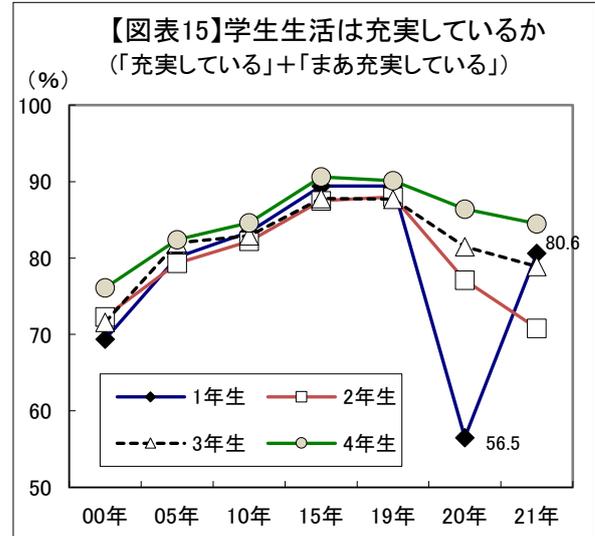
現2年生の「充実度」は20年56.5%→21年70.8%と推移

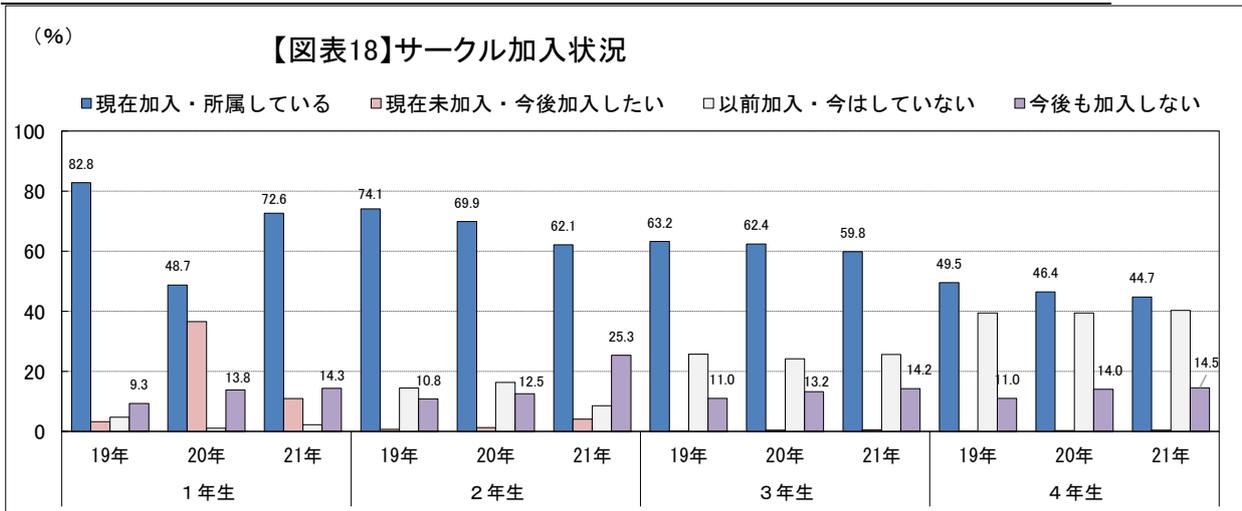
サークルへの加入状況は1年生が回復傾向、

2年生にあきらめと希望が混在 (速報版8pの自由記述欄参照)

- ① 学生生活が「充実している」(「充実している」+「まあ充実している」)は78.6%と前年から4.4ポイント増加したが、19年88.8%には届いていない。特に1年生の80.6%(前年+24.1ポイント)に対して、2年生は70.8%(同▲6.3ポイント)にとどまった。上級生の前年からの推移は、現2年生(前年1年時56.5%→現70.8%)・現3年生(前年2年時77.1%→現78.9%)・現4年生(前年3年時81.5%→現84.5%)と増加しているが、いずれも19年には届いていない(19年1年生89.4%・2年生88.0%・3年生87.7%・4年生90.1%)。
- ② 授業形態別の「充実している」は、どの形態においても2年生は低い傾向にある。「すべてオンライン授業」は、1年生68.5%・2年生55.0%・3年生65.8%・4年生77.8%と、2年生の「充実している」が特に低い。(それぞれの授業形態を100として)

- ③ 大学生活で現在最も重点をおいていることは、「勉強や研究」32.7%、「よき友を得たり、豊かな人間関係を結ぶこと」16.2%、「部活動・サークル・同好会活動」14.1%と続く。19年から「部活動…」は▲4.3（1年生▲5.8・2年生▲5.2・3年生▲3.3・4年生▲2.0）ポイント減少し、「よき友…」は+1.3（1年生+2.6・2年生+2.0）ポイント増加している。
- ④ サークル・部活動等への加入・所属は59.9%（前年+3.0・19年▲8.2ポイント）。1年生は72.6%（前年+23.9ポイント）と増加したが、19年より10.2ポイント少ない。また、2年生は12.0ポイント少ない。
- ⑤ 2年生の「所属したことがない・今後も入らない」25.3%（前年+12.8・19年+14.5ポイント）が突出している一方、「現在所属していないが今後入るつもり」4.1%（同+2.8・+3.4ポイント）と、今後への希望がある。

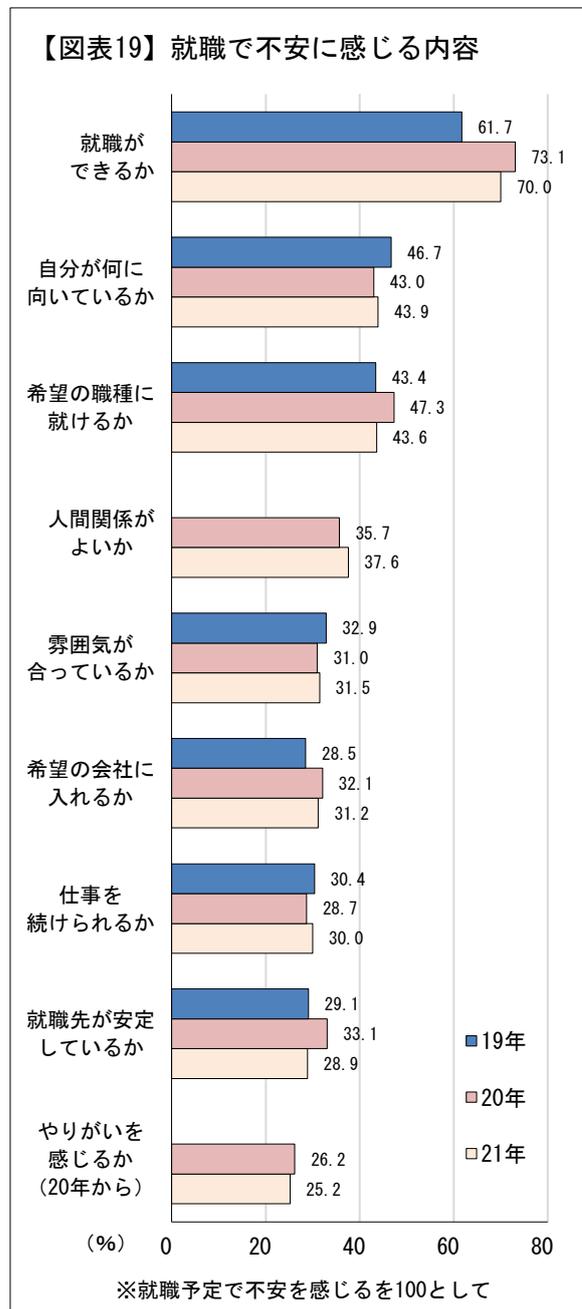




(3) 就職について (図表 19)

就職に対する不安はやや減少するも、
引き続きコロナ前よりも高い水準
インターンシップ経験はコロナ前にほぼ回復

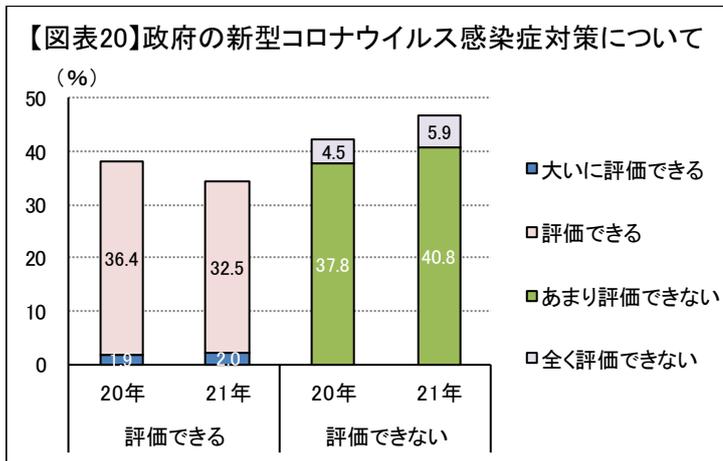
- ① 就職に「不安を感じている」(「とても感じている」+「感じている」)は73.5%(前年▲1.0ポイント)。これから本格的に就職活動を行う2年生80.4%・3年生81.7%の不安は大きい。
- ② 特に就職予定者の「不安を感じている」を100として「就職ができるか」70.0%は、2年生79.8%(19年70.6%→20年81.6%)・3年生82.8%(同73.1%→85.6%)でコロナ禍以前より就職への不安が高まっている。
- ③ 調査時期(21年10~11月)に就職予定者を100とした内定者は4年生72.4%(前年+2.4ポイント)。文科系4年生81.9%(同+3.2ポイント)、理工系4年生78.7%(同▲0.7ポイント)。
- ④ 就職先を決めるにあたって重視する(した)条件は、「収入面の待遇」「職種」「やりがい」と続く。
- ⑤ この1年間で企業や団体が実施しているインターンシップへの参加は、21.5%で前年より2.6ポイント増加。特に3年生の就職予定者を100として54.7%(前年+9.1ポイント)となり、19年(55.7%)のレベルまでほぼ回復した。インターンシップの募集や参加形態の変化が進んでいることがうかがえる。
- ⑥ インターンシップへの参加目的は、就職予定者を100として「関心がある企業や業界を知るため」20.1%、「多くの企業や業界を知るため」13.7%となっている。



(4) 政治・社会への関心 (図表 20)

政府の新型コロナウイルス感染症対策は「評価できない」が増加

- ① 国内外の政治の動向に関心が「ある」(「大いにある」+「まあある」) 59.0%と、前年より 2.7 ポイント減少した。関心が「ある」は、女性 55.3%に対して男性が 61.8%、理工系 54.9%・医歯薬系 47.5%に対して文科系が 64.9%と高い。
- ② 政府の新型コロナウイルス感染症対策を「あまり評価できない」+「評価できない」46.7%は、「大いに評価できる」+「評価できる」34.5%を上回っている。日本の未来は明るい「とても思う」+「まあ思う」33.2% (前年+1.5 ポイント)、「あまり思わない」+「全く思わない」66.9% (同▲1.4 ポイント)。調査を始めた 15 年から未来を明るい「思わない」は 7 割前後を推移している。

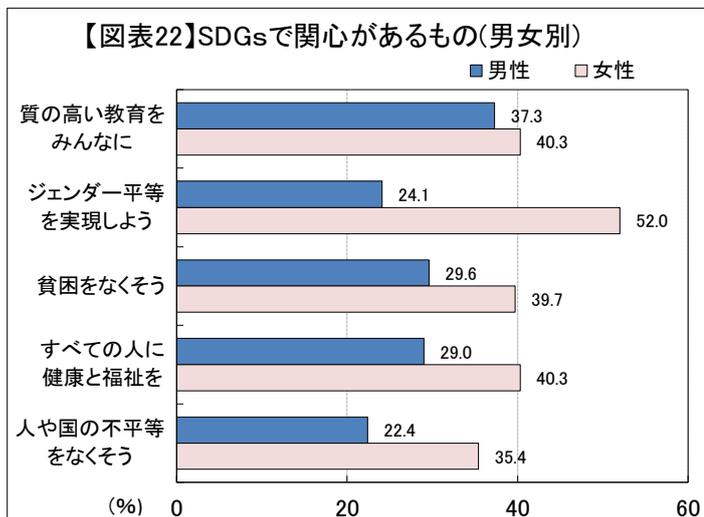
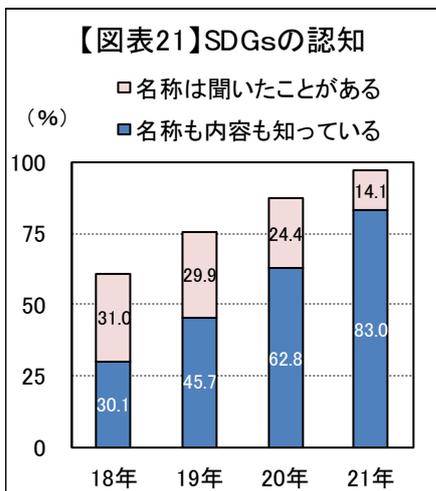


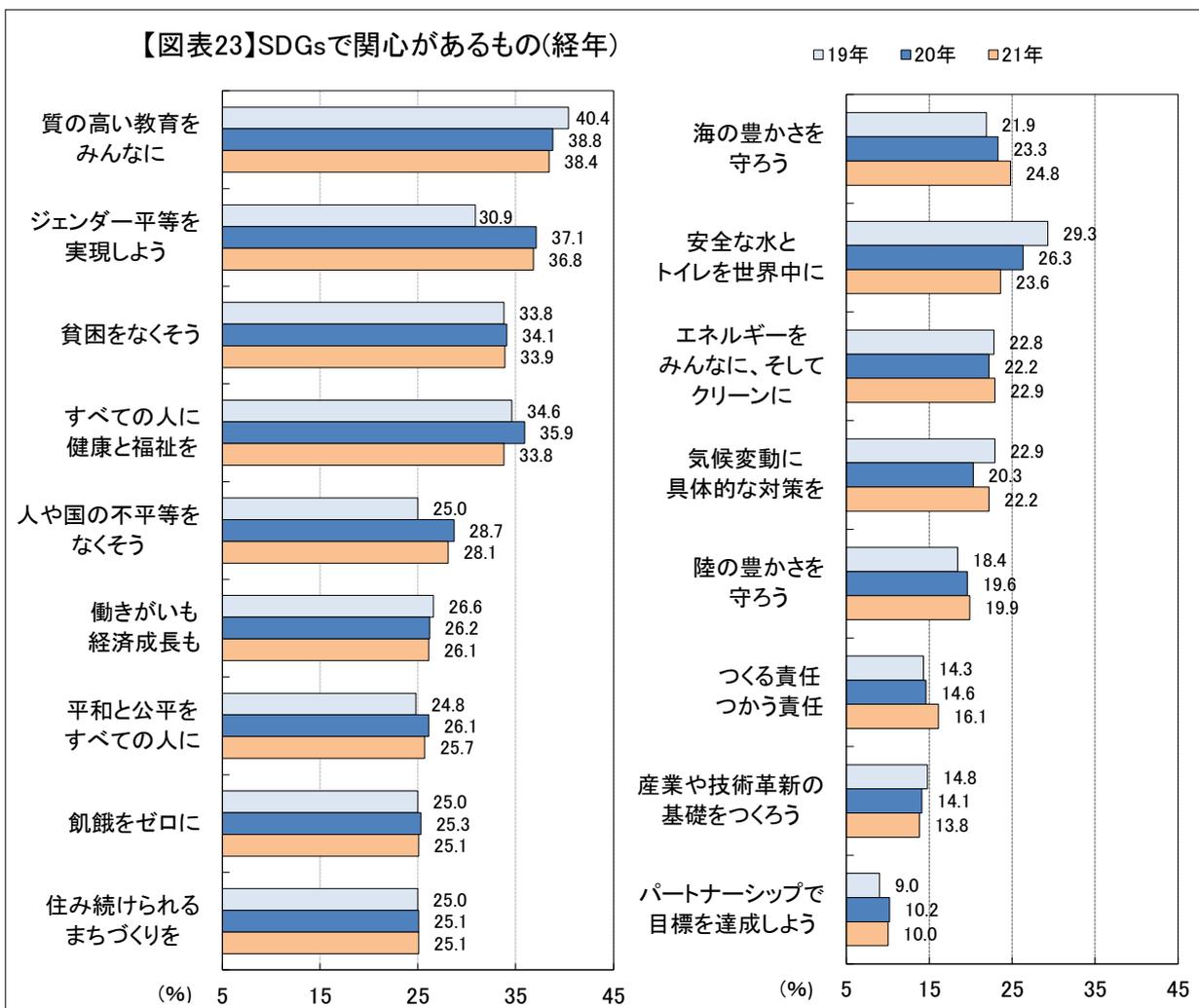
(5) SDGs について (図表 21~23)

SDGs の認知が 97.1%

「ジェンダー平等」への関心は性別による違いが大きい

- ① SDGs の「名称も内容も知っている」+「内容は知らないが名称は聞いたことがある」は、前年から 9.9 ポイント増加し 97.1%となった。特に「名称も内容も知っている」は前年から 20.2 ポイント増加して 83.0%。
- ② 17 の目標のうち関心が高いものは、「質の高い教育をみんなに」38.4% (文科系 40.2%・理工系 35.9%・医歯薬系 37.8%)、「ジェンダー平等を実現しよう」36.8%、「貧困をなくそう」33.9% (男性 29.6%・女性 39.7%)、「すべての人に健康と福祉を」33.8% (文科系 33.7%・理工系 28.5%・医歯薬系 48.1%) と続く。
- ③ 関心の高さは男女による違いがあり、「ジェンダー平等を実現しよう」は、男性 24.1%・女性 52.0%と特に差が大きい。





3. 日常生活

(1) 日常生活の中で日頃悩んでいることや気にかかっていること (図表 24~26)

「授業・レポート」「コロナ対応」への悩みは20年に比べ減少
学生生活充実度により悩みの中身が異なる傾向が鮮明

「コロナ禍での学生生活」の受け止めが背景に
「友だちができない」悩みを持つ2年生は大幅増

- ① 日常生活の中で日頃悩んでいることや気にかかっていることは、「授業・レポート等勉学上のこと」47.2% (前年▲4.5・19年+6.2ポイント)、「就職のこと」42.7% (同±0・+6.0ポイント)、「生活費やお金のこと」40.0% (同±0・▲3.1ポイント)と続く。「授業…」や「新型コロナウイルスへの対応に関わること」11.3% (前年▲4.6ポイント)は前年より減少し、授業形態の変化や新型コロナウイルス感染症への対応が進んでいることがうかがえる。
- ② 学生生活が「充実している」人で気にかかっていることは、1年生「恋愛のこと」20.7% (前年+5.2ポイント)、2年生「友だちができない・対人関係がうまくいかない」15.0% (同+5.5ポイント)。「時間が足りないこと」は、3年生25.2% (同+2.7ポイント)・4年生25.2% (同+4.5ポイント)で増加が大きい(「充実している」+「まあ充実している」を100として)。
- ③ 「充実している」人と「充実していない」人とは、気にかかっていることに大きな違いがある。

2年生で「友だちができない…」(充実している 15.0%・充実していない 49.6%)、「生きがいや夢中になれることが見つからないこと」(同 19.5%・44.0%)、「心身の不調・病気など健康のこと」(同 8.2%・16.1%)となっている(「充実している」+「まあ充実している」・「充実していない」+「あまり充実していない」をそれぞれ100として)。

- ④ 悩んでいることを相談する相手が「いる」は83.0%(前年+1.3ポイント)、「いない」が17.0%。最も相談しやすい相手は「友人」39.6%(同▲0.1ポイント)、「親」26.3%(同+0.5ポイント)。「親」は、1年生28.1%(同▲1.2ポイント)・2年生27.5%(同+2.4ポイント)・3年生24.0%(同▲0.3ポイント)・4年生25.4%(同+1.9ポイント)と2・4年生で増加している。

【図表24】学生生活が「充実している」人が気にかかっていること (％)

	1年生		2年生		3年生		4年生		合計	
	20年	21年								
授業・レポート等勉学上のこと	63.8	53.5	56.6	54.6	42.0	40.4	30.2	30.8	47.7	44.6
就職のこと	28.8	30.8	45.0	45.5	60.6	58.8	29.9	30.5	41.5	40.5
生活費やお金のこと	39.9	38.9	40.3	40.0	37.0	36.5	37.9	39.6	38.7	38.8
時間が足りないこと	25.1	27.1	27.3	30.2	22.5	25.2	20.7	25.2	23.9	26.9
専攻分野や進路のこと	28.5	28.4	29.9	30.6	28.2	27.8	18.7	19.9	26.3	26.4
自分の性格や能力のこと	21.2	22.6	26.0	25.3	22.6	20.3	21.0	22.1	22.8	22.6
恋愛のこと	15.5	20.7	19.7	20.4	16.4	17.2	13.7	16.4	16.4	18.7
生きがいや夢中になれることが見つからないこと	18.8	20.5	21.7	19.5	19.3	15.8	12.8	12.8	18.2	17.1
アルバイトのこと	28.3	26.0	20.8	19.9	12.9	13.0	11.6	8.9	18.1	17.0
サークル等の活動のこと	18.0	14.1	16.4	15.0	12.1	12.0	5.3	5.1	12.8	11.4
友だちができない(いない)・対人関係がうまくいかないこと	20.8	15.9	9.5	15.0	6.5	7.4	4.9	5.8	10.0	11.0
新型コロナウイルスへの対応に関わること	13.4	9.7	15.6	10.0	13.4	9.0	15.6	12.3	14.6	10.3
特にない	8.8	9.6	7.3	6.9	6.1	7.4	15.2	12.4	9.3	9.2
心身の不調・病気など健康のこと	7.9	7.1	10.0	8.2	9.1	10.4	9.4	10.6	9.2	9.1
家族のこと	6.3	6.5	7.1	7.0	8.1	7.7	8.1	8.8	7.4	7.5
住居や生活の雑事	7.0	6.6	7.5	6.6	4.4	5.2	5.0	6.4	6.0	6.2
政治や社会の動き	6.0	5.5	7.1	5.7	5.6	5.1	6.8	5.5	6.4	5.5
その他	0.2	0.4	0.4	0.5	0.2	0.2	0.2	0.6	0.2	0.4

※「充実している」は「充実している」+「まあ充実している」

※「充実している」を100として

↑
気
に
な
る

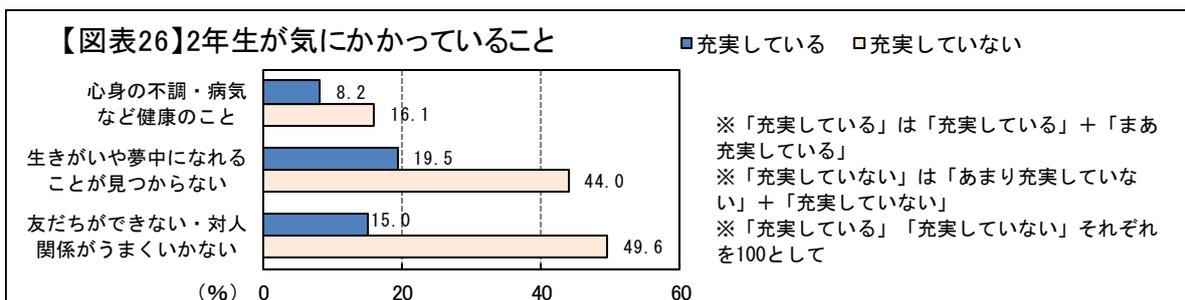
【図表25】学生生活が「充実していない」人が気にかかっていること (％)

	1年生		2年生		3年生		4年生		合計	
	20年	21年								
授業・レポート等勉学量のこと	70.4	68.0	63.6	60.7	53.8	50.8	42.7	40.9	62.9	56.6
就職のこと	35.8	41.9	55.5	50.9	65.0	67.5	45.5	42.6	46.3	50.9
生活費やお金のこと	42.8	39.9	43.7	42.9	43.6	48.4	46.1	47.5	43.5	44.3
生きがいや夢中になれることが見つからないこと	37.3	46.1	42.8	44.0	41.9	41.1	33.9	36.0	38.9	42.4
友だちができない(いない)・対人関係がうまくいかないこと	52.2	52.1	27.5	49.6	25.6	26.7	20.0	21.4	38.4	39.9
自分の性格や能力のこと	29.1	38.0	35.5	35.1	40.4	37.7	37.0	35.1	33.3	36.4
専攻分野や進路のこと	31.3	34.2	38.5	34.2	34.6	34.8	25.5	24.5	32.8	32.6
時間が足りないこと	25.9	27.8	27.8	27.0	25.0	31.3	26.1	20.5	26.2	26.9
恋愛のこと	22.1	28.9	24.1	27.2	22.9	26.5	23.3	23.3	22.8	26.7
アルバイトのこと	33.7	35.1	24.9	25.8	21.8	20.8	19.4	13.9	28.0	24.7
心身の不調・病気など健康のこと	11.3	17.4	17.9	16.1	21.4	19.5	17.6	22.1	15.2	18.2
サークル等の活動のこと	26.7	22.9	19.6	17.5	10.9	13.4	5.8	6.8	20.0	15.9
新型コロナウイルスへの対応に関わること	20.3	13.7	20.6	16.3	18.6	13.2	16.4	14.4	19.6	14.7
家族のこと	8.1	11.3	12.9	12.6	13.5	9.9	14.2	13.6	10.8	11.9
住居や生活の雑事	9.3	11.5	10.9	8.5	9.6	10.9	10.3	11.1	9.8	10.2
政治や社会の動き	6.6	8.4	8.3	8.8	10.3	8.8	8.8	6.4	7.8	8.3
特にない	2.5	2.6	2.9	2.8	1.9	1.8	4.2	5.4	2.7	3.0
その他	0.6	0.9	0.6	0.4	0.2	0.6	1.2	0.7	0.6	0.6

※「充実していない」は「充実していない」+「あまり充実していない」

※「充実していない」を100として

↑
気
に
な
る



(2) 大学入学後のトラブル遭遇 (図表 27)

少なくない大学生が消費者トラブルに遭遇
とりわけ一人暮らしの学生に多い傾向

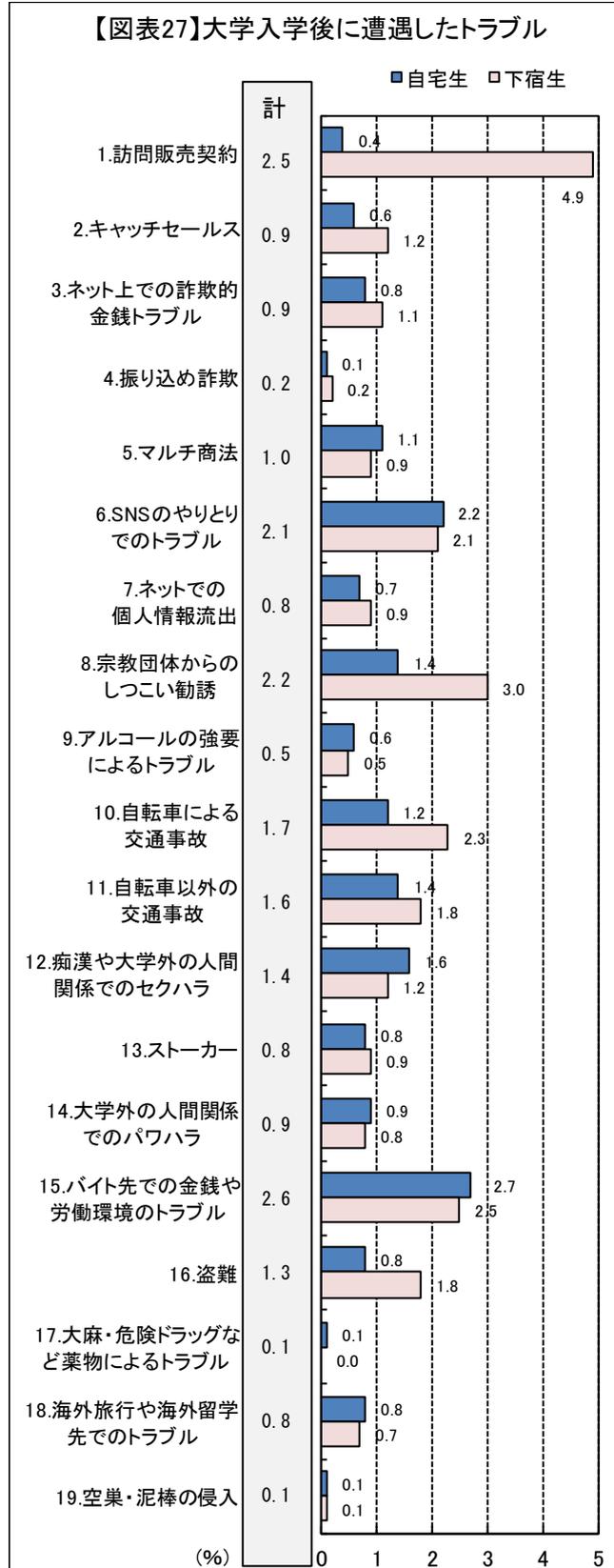
- ① 「大学入学後に遭遇したトラブル」(複数回答)のうちいわゆる消費者トラブルが、30 大学回答者 10,813 人の中で 600 件近く発生しており、かなりの件数となっている。図表 27 の 1~5、すなわち「訪問販売契約」「キャッチセールス」「ネット上での詐欺的金銭トラブル」「振り込み詐欺」「マルチ商法」の合計は 5.5%で、約 600 件となる。
- ② 「訪問販売契約によるトラブル」は下宿生では 4.9%、240 件にも上る。下宿生は、自宅生より消費者トラブルのリスクが高い傾向にある。
- ③ 個人情報流出や SNS のやり取りでのトラブルも少なくない。
- ④ 22 年 4 月からの成年年齢引き下げによりさらに拡大する可能性もあり、今後はより一層の注意喚起が求められる。

(3) 利用するメディア・信頼するメディア (図表 28)

インターネット上でのメディア利用増

- ① 政治や社会の情報を入手する際に利用するメディア(複数選択可)は、「テレビ」59.5%、「まとめサイト」50.7%、「Twitter」49.5%。その中で最も信頼がおけるメディア(単一選択)は、「テレビ」34.0%、「まとめサイト」17.6%、「新聞」13.0%。
- ② 政治への関心の有無で利用の差が大きいメディアは、「新聞」(関心あり 25.0%・関心なし 9.0%)、「まとめサイト」(同 55.3%・44.0%)。信頼の差が大きいメディアは「新聞」(同 17.6%・6.4%)となった(政治への関心の有無それぞれを 100 として)。

【図表 27】大学入学後に遭遇したトラブル



【図表28】政治や社会の情報入手する際に利用するメディア・最も信頼がおけるメディア (%)

	情報入手する際に利用するメディア						最も信頼がおけるメディア					
	18年	21年	政治に関心あり		政治に関心なし		18年	21年	政治に関心あり		政治に関心なし	
			18年	21年	18年	21年			18年	21年	18年	21年
テレビ	66.3	59.5	69.2	62.9	62.9	54.5	38.1	34.0	32.3	31.6	44.8	37.4
まとめサイト	56.5	50.7	64.4	55.3	47.4	44.0	18.7	17.6	18.8	16.9	18.5	18.6
Twitter	42.0	49.5	43.8	50.9	39.9	47.4	7.9	9.8	7.5	9.1	8.4	10.8
YouTube		31.2		31.5		30.8		5.5		4.9		6.4
新聞	22.6	18.5	31.3	25.0	12.3	9.0	15.0	13.0	20.9	17.6	8.2	6.4
LINE	22.8	25.5	21.1	23.5	24.8	28.1	3.7	4.5	1.9	3.2	5.6	6.4
マスメディア	12.9	12.3	18.3	15.7	6.7	7.3	4.1	3.8	5.6	4.7	2.4	2.4
本・雑誌	10.4	8.9	15.3	11.7	4.7	4.9	4.6	3.5	6.7	4.6	2.2	2.2
その他のSNS	4.5	7.5	5.0	6.8	3.9	8.3	1.0	1.7	1.1	1.2	0.9	2.4
ラジオ	3.3	4.1	4.1	5.1	2.4	2.7	0.8	1.0	0.7	1.2	0.9	0.7
特定のサイト	2.4	1.9	3.7	2.5	0.9	1.2	0.4	0.5	0.6	0.5	0.2	0.2
Facebook	3.0	0.9	3.9	1.2	1.9	0.7	0.3	0.1	0.4	0.2	0.4	0.0
その他	0.1	2.0	0.2	1.7	0.0	2.4	0.0	1.4	0.0	1.2	0.0	2.0
無回答	3.1	1.4	1.9	1.2	4.5	1.7	5.5	3.5	3.7	3.0	7.5	4.2

※「政治への関心あり・なし」は関心の有無それぞれを100として

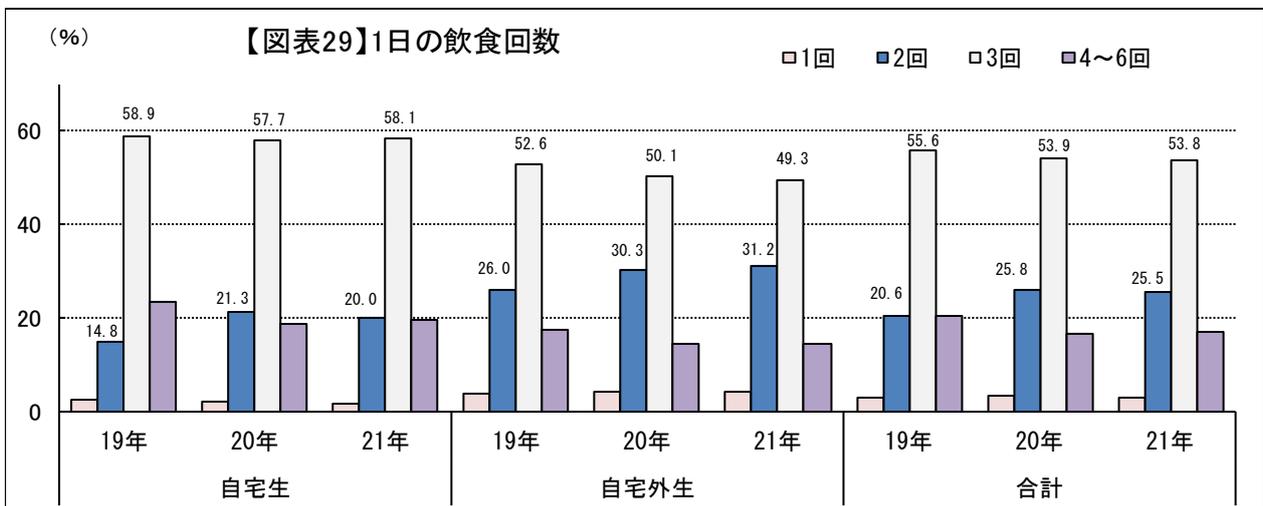
※21年から「YouTube」

(4) 食事 (図表 29)

コロナ前に比べ食生活の変化の傾向が鮮明に

～「1日2回」飲食の増加／自宅での喫食機会の増加

- ① 食事の摂取率は、朝食（9時までの食事）61.1%（前年+2.3・19年▲6.5ポイント）、朝昼兼用食（9～11時の食事）24.9%（同▲2.0・+3.8ポイント）。朝食の摂取率がやや回復した。
- ② 朝昼兼用食をとっている人の81.9%は自宅で食事をしており（前年▲4.3・19年+21.7ポイント）、この時間には大学にいないことになる（食事した人を100として）。
- ③ この調査では食事時間帯を、朝食（～9時）・朝昼兼用食（9～11時）・昼食（11～14時）・中間食（14～17時）・夕食（17～21時）・深夜食（21時以降）としている。朝昼兼用食の摂取率から、コロナ禍以降に学生の生活習慣が変化し、登校時間が遅くなり午前は自宅にいることが増えたことが読み取れる。
- ④ 1日の飲食回数は、3回53.8%（自宅生58.1%・自宅外生49.3%）、2回25.5%（自宅生20.0%・自宅外生31.2%）。1日2回の飲食は、19年までは5人に一人だったが、20年以降は4人に一人となっている。



(5) 読書時間・勉強時間 (図表 30~31)

**1日の読書時間「0分」が再び増加
大学の予習復習などの勉強時間が増加**

- ① 1日の読書時間（電子書籍も含む）「0分」は50.5%で、前年から3.3ポイント増加した。
- ② 1日の読書時間の平均は28.4分（前年▲3.7分）、読んだ人の平均は58.9分と前年より4.1分短くなった。
- ③ 1日の読書時間が「30分～60分未満」11.4%（前年▲1.0ポイント）、「60分～120分未満」18.6%（同▲0.8ポイント）、「120分以上」7.2%（同▲1.4ポイント）と30分以上の分布で減少した。
- ④ 1日の「授業時間（対面授業＋オンライン授業）」＋「大学の勉強（予習や復習など）」＋「大学以外の勉強（就職に関することや関心事など）」の「総勉強時間」は、324.7分で3.6分増加した。「大学の勉強時間」70.7分（前年＋7.7分）、「大学以外の勉強時間」32.9分（同＋4.0分）とも増加している。
- ⑤ 学年別でみた1日の「大学の勉強時間」は、1年生66.8分（前年＋0.6分）、2年生72.9分（同＋8.6分）、3年生64.0分（同＋7.3分）、4年生78.3分（同＋14.4分）。1日の「総勉強時間」は、1年生351.9分（前年▲0.3分）、2年生368.3分（同＋8.2分）、3年生352.8分（同＋10.3分）、4年生227.1分（同＋16.0分）と、高学年の増加が大きい。

